

# 限界集落の漁村で女性の雇用を創出！

## 2 石田 元気 さん Genki Ishida

起

東紀州

合同会社 き・よ・り（尾鷲市）  
業務執行社員

事業所

住所：三重県尾鷲市早田町 6-3

URL：https://www.amikiyori.com

社員数：2名

業種

鮮魚の通信販売・移動  
販売など



### Profile

- 東日本大震災を機に生き方を転換
- 地域おこし協力隊員として尾鷲市に移住
- 限界集落の漁村で女性の雇用創出に尽力
- 現在は故郷宮城県で新聞記者として活躍中

### 講演・相談可能分野

- 仕事と家庭の両立
- 育ボス
- 人材育成
- 障がい者雇用
- 起業
- NPO 設立
- 多文化共生
- 地域資源活用
- 防災
- その他（仕事創出の取組）

### 講演実績

## 「私の使命」

### 漁業の町で“陸の仕事”を創出する

おとど（鮮魚）の町、三重県尾鷲市。沿岸部はリアス式海岸が広がり、入江に点々と集落が営まれています。早田（はいだ）地区は人口 150 人を下回る限界集落。宮城県出身の石田さんは、2014 年に地域おこし協力隊員としてここへやって来ました。「尾鷲に来るのは初めてでした。東日本大震災から、ふるさと創生に関心を持ち、東京の仕事を退職して来ました」。

早田でのミッションは、“女性の雇用創出”。早田では『早田漁師塾』の取組により漁師の若返りに成功、今度は“陸上の仕事”のてこ入れが求められていました。石田さんは丹念に町を歩き、①町のみんが魚を捌けること②定置網に依拠した多様な魚食文化が根づいていることに着目しました。

### 早田の鮮魚と女性のスキルを外へ売る

「早田の基幹産業である定置網漁は、とても不思議で面白いんです。何が獲れるか分からない。台風前後の 1 日で、網にかかる魚の種類がガラリと変わります」。石田さんは協力者と力を合わせ、この“何が獲れるか分からない魚”をネットで通信販売しようと考えました。名付けて『うみまかせ』。魚の捌き方や、美味しく味わう調理法を紹介したレシピも同梱することに。

さらに早田の女性が近郊の都市へ出張する、魚の捌き方教室『さばき会』も開催。2017 年には移動販売車も購入できました。これらの事業が開始したことで、ネット通販の保守/パッケージデザイン/料理コーディネーター/商品発送/出張デモンストレーターなど、多彩な仕事が創出されました。

## 私流リーダーシップ

### 率先して汗を流し、地域住民と二人三脚。

「リーダーシップなんてとんでもない」と石田さんは笑います。それもそのはず、早田の高齢化率（65 歳以上が人口に占める割合）は 60% 超で、町の大半が高齢者。それに右も左も分からない県外出身の若者だったため「早田の皆さんに、助けてもらってばかりでした」。『うみまかせ』の事業に必要な魚の仕入れは、「漁船に乗せてもらい、水揚げ作業を知ろうと融通してもらえるようになりました」。

他の仕事を進めるにあたって、「自分から率先してやってみる・どれだけ大変か体感してみる」ことをモットーに活動していたといいます。「汗を流していると、どこからか手を差し伸べてもらえました」。ある時は、自宅に夕食が置かれていたこともあったとか。

### 中身はお楽しみ！ 鮮魚『うみまかせ』発売中

地域おこし協力隊員の任期は最長 3 年。石田さんは 2017 年に任期満了し、地元宮城県へ帰郷しました。『き・よ・り』は後任の地域おこし協力隊員が引き継ぎ『うみまかせ』『さばき会』『移動販売』などの事業は現在も続行中。一方、石田さんは宮城で再就職しました。「早田で得た知識や経験が、実は今、大いに役立っているんですよ」。

尾鷲で魚が大好きになり、漁業関係の業界新聞記者に。『き・よ・り』の行く末も気にかけて、宮城で売上を確認し、アドバイスをするなどしています。離れていても心は早田の一員。早田が“家族が安心して暮らせる漁村。女性も男性もすべての人材が輝ける漁村”になるよう、自身が立ち上げた会社を今も見守ります。

（取材時：2018 年 8 月）

### こんな講演・相談に対応できます

- 過疎地域の女性の仕事創出例
- Web を利用した産直品販売
- 移住者の地域産業への挑戦
- 移住者を迎える環境整備

### お問い合わせ先

三重県 ダイバーシティ社会推進課

TEL：059-224-2225

WEB：http://www.pref.mie.lg.jp/katsuyaku/index.htm

WEBは  
ここから

